

# 共同礼拝

2024年9月1日(日) 午前10時30分  
午後4時

司式 牧師 姜 徑米  
奏楽 河野和雄

前 奏

招 詞 ヨハネによる福音書 7章37b～38節

讃 詠 546

主の祈り

聖 書

イザヤ書 45章20～25節 (旧1137)

マタイによる福音書 24章32～51節  
(新48)

祈 禱

使徒信条

讃 美 歌 85

説 教「神の言葉は滅びない」牧師 高橋和人

祈 禱

讃 美 歌 205

聖 餐 式

献 金

頌 栄 539

祝 禱

後 奏

起立が困難な時は着席のまま礼拝します。  
礼拝は前の方から静かに着席しましょう。

## 9月の祈り

主の選びとみ救いに与り、主と共に歩んだ信仰の先達たちを覚え、残された人々に主の復活によって明らかにされた、真の命の希望と慰めが与えられるように。

伝道が力づけられるように。秋の諸行事が守られるように。

夏休みを終えた子どもたちの心と体が守られ力づけられるように。

## 今日の祈り

み言葉による礼拝が主の栄光を表すものとされるように。聖餐に与る恵みを覚え、一層主のみ旨に歩むことができるように。

暑さの中、高齢の兄弟姉妹が支えられるように。

災害の被災者が力づけられるように。戦火による被害と痛みが和らげられるように。平和と復興が与えられるように。

「神の言葉は滅びない」 高橋和人

マタイによる福音書 24章32～51節

主イエスは「天地は滅びるが、わたしの言葉は滅びない」と明言された。天地が滅びを知っていることが、信仰者の生き方になる。今年に入り、葬儀が続いた。多くの信仰者が自分の生涯の終わりを意識していた。それらは慰めとなった。

天地が滅びることは、人を恐れさせる。人は今が続くことを前提としているからだ。その中で信仰も何かより良いものをもたらしてくれるものと考えられがちになる。

主イエスの教えは終わりの時と滅びについて丁寧に教えられる。滅びを知っていることを主イエスが求めておられる。自分が死ぬべきものであることを

無視して、正しく見ることはできない。

「死すべきもの」であることは、教えられなければならない。灰の水曜日の礼拝のとき、額に「あなたの死を覚えよ」と灰を十字に付けてもらうことがある。おびえさせるためではない。生の意味を考えさせられる。

「その日、その時は、だれも知らない、父だけがご存じである」と主は言われる。ノアの洪水の時、それまで人々は飲食と生活を続けていた。食事への言及が続く。生きることは食事と生活になる。その積み重ねが生涯を形作る。しかし、それは一部に過ぎない。食事なしには生きられないが、生涯の意味や価値は食事によらない。

その時は知らされていないが、その時をわきまえていなければならない。思いがけない時のために備えなければならない。

それは家の主人を迎えるためだ。主人は僕を立てられる。賢い僕は時間どおり食事を与えるようにさせる。それに対し、悪い僕は主人は遅いと思い、自分の好きな仲間と飲食を貪る。

弟子たち、そして教会に求められているのは時間通りの食事だ。それは、「わたしの言葉は決して滅びない」と言われている主の言葉を語ることだ。それは礼拝を示している。

主イエスが弟子たちに語り掛け、終わりを意識させるのは、その生涯の全体が主と共にあることを知らせるためだ。主に従うものが主と共に生きるために、主は言葉をもって語り掛けられている。そして、最後まで主の言葉に生きる。そのためには、主の日の礼拝に日々支えられることだ。